

〈研究ノート〉

現代日本語における 対応する動詞形のない V1 + V2型複合名詞 —辞書に基づくリスト化—

鈴木 智美 (東京外国語大学)

【キーワード】 V1 + V2型複合名詞、対応する複合動詞、品詞の転成、辞書、リスト化

1. 本稿の目的

本稿の目的は、「動詞 (V1) + 動詞 (V2)」の形をとる複合名詞 (以下、「V1 + V2型複合名詞」とする) のうち、現代日本語において対応する複合動詞の形が用いられないタイプのものに、どのような語があるのかを網羅的にリスト化して示すことである。

「動詞 (V1) + 動詞 (V2)」の構成を持つ複合名詞は、対応する複合動詞の有無から見ると、以下の (1) と (2) のような2つのタイプに分けられる。

- (1) 話し合い、申し込み、受け付け、締め切り、生き残り、追い越し、呼びかけ、取り違え、開き直り、突き当たり、行き詰まり など
- (2) 読み書き、乗り降り、立ち読み、押し売り、飛ばし読み、思い出し笑い¹ など

(1)(2)の複合名詞は、いずれも「動詞 (V1) + 動詞 (V2)」の構成を持つ。前項動詞 (V1) と後項動詞 (V2) は、いずれも連用形の形をとり、品詞の転成により、全体として複合名詞を形成している。しかし、(1) に挙げた複合名詞が、「話し合う」「申し込む」「受け付ける」など、対応する複合動詞の形が存在するのに対し、(2) の複合名詞については、それらに対応する「*読み書く」「*乗り降りる」「*立ち読む」「*押し売る」「*飛ばし読む」「*思い出し笑う」のような複合動詞の形は、通常用いられない。

「動詞 (V1) + 動詞 (V2)」型の複合名詞に、上記の (2) のタイプのものであることは、従来指摘されている点である²。しかし、対応する複合動詞を持たないこのようなタイプの「V1 + V2型複合名詞」には、現代日本語において、どのようなものがどれくらい存在するのだ

1 「思い出し笑い」は、前項動詞 (V1) がさらに「思い出す」という複合動詞の形をとる。本稿で対象とする「V1 + V2型複合名詞」には、前項動詞 (V1) あるいは後項動詞 (V2) がさらに複合動詞の形をとっているものも含めて考える。

2 複合動詞の構造について論じた長嶋 (1976:103) は、複合動詞の中には、同じ動詞を後項動詞としていても、複合名詞を作ることのできるもの (「呼び出す」→「呼び出し」、「座り込む」→「座り込み」など) と、できないもの (「思い出す」→「*思い出し」、「考え込む」→「*考え込み」など) があることを指摘しており、逆に「立ち食い」「立ち読み」という名詞形には、対応する「*立ち食う」「*立ち読む」などの動詞形がないということについても触れている。

ろうか。先行研究においては、このような複合名詞の存在については指摘されているものの³、その網羅的なリストは示されておらず、このタイプの複合名詞にどのようなものがあるのか、その全体像を参照することのできる資料は見られない。

2. 先行研究

このようなタイプの複合名詞について、それをリスト化して示すという本稿の目的に沿って見れば、関連する先行研究としては以下の2つが挙げられる。

まず、このようなタイプの複合名詞を取り上げ、その前項動詞と後項動詞の意味的關係について詳細な検討を行ったものに、石井（2007）がある。3種の辞書⁴を調べた結果、このようなタイプの複合名詞が461語抽出できたとされているのだが、その461語は一覧としては示されていない。

また、鈴木（2013）は、辞書をもとに、「あ行」（あ～お）の見出し語の中から、このタイプの複合名詞を抽出する試みを行っている。該当する語は93語見つかったとされるが、そのうち現代語として日常的に使用されると思われる語は28語で、他は使用される分野が限定されているか、古語の性格の強いものと思われるとしている。また、語源的に見れば対応する動詞形を持つのだが、現代日本語としてはそれが自然に用いられるとは思われないというものが、別に8語観察されたという結果を述べている。

本稿では、上記の鈴木（2013）と基本的に同様の手順を踏み、辞書に基づき、すべての見出し語の中からこのタイプの複合名詞を抽出し、リスト化を行う。

3. リスト化の方法

本稿では、総合的な国語辞書として、約23万8千項目を収録するとされる『大辞林 第三版』（2006年）⁵を資料とし、その見出し語の中から、動詞の対応形を持たないと見られる「V1 + V2型複合名詞」を網羅的に抽出し、リスト化を行う。抽出の際には、前項動詞と後項動詞とがどのような関係で結びついているかについては、特に分類等は行わない。

現代語の感覚からは、もはや動詞の対応形を持つかどうか判断がつきにくくなっている場合があるため、抽出されたリストについては、さらに『日本国語大辞典 第二版』にあたって、対応する動詞形について記載があるかどうかを確認する⁶こととする⁷。

3 西尾（1961）、長嶋（1976）、国立国語研究所（1985）など。

4 『学研国語大辞典』『岩波国語辞典 第二版』『新明解国語辞典 第三版』を用いたとのことである。

5 初版の序に、「現代語の記述に重点を置きつつ、古語や百科語をも含めた総合的な国語辞典をめざしたもの」とある。

6 『大辞林 第三版』において対応する動詞形が項目として取り上げられていなくても、『日本国語大辞典 第二版』にあたってみると、対応する動詞形が記載されているというものは、相当数（196語）観察された。

7 現代日本語の母語話者の感覚では、対応する動詞形が「ない」のではないかと感じられるものの中には、実は辞書にあたって確認すれば対応する動詞形が記載されているというものは相当数あるということが言える。例えば、

リスト化を行うにあたっては、「V1+V2」の形をとってはいるものの、語構成の観点から見て、構成要素の一方が名詞として用いられていると思われる語、および構成要素の一方が接辞化していると考えられる語については除くこととした。前者については25語⁸、後者については37語⁹観察された。

次に、使用分野が特定されていると考えられるものには、「金融・取引用語」「住宅・建築用語」「芸能用語」など、本稿における分類用語を付して区別することとし、古語の性格が強いなど、現代語として日常的に用いられるとは思われないものについても、別リストとする。現代語として用いられる語かどうかの判断には、比較的新しく、かつ項目数も絞られている3種の辞書(『明鏡国語辞典 第二版』(2010年、項目数約7万)、『岩波国語辞典 第七版新版』(2011年、項目数約6万5千)、『新明解国語辞典 第七版』(2012年、項目数約63,500)を参照し、その見出し項目として取り上げられているかも参考として判断した。

リスト化の結果およびリスト化の作業を通じて浮かび上がった注意点については、以下の第4節および第5節で順に述べる。第4節では、対応する動詞形を持たない「V1+V2型複合名詞」としてどのようなものが抽出されたか、その結果を、上記の手順にしたがい、「使用分野が特定されるもの」「現代語として日常的に用いられにくいもの」については別リストとし、計3つのリストに分けて示す。

また、第5節では、対応する動詞は持つのだが、現代日本語の観点からは注意が必要だと思われる語について述べる。その1つは、上記の手順にしたがい確認すれば、確かに対応する動詞形は持つのだが、現代日本語としてそれが自然に用いられるとは思われない「V1+V2型複合名詞」である。このようなものが少なからず観察されたため、これについて第5節で別途取り上げることにする。また、数は少ないが、現代語における活用形が古語と一致していないために、現代日本語においてその対応する複合動詞の形を正しく想起することが難しいと考えられるものについても、ここで述べる。最後に、辞書からは対応する動詞形の存在は確認されなかったものの、現代日本語においては、「V1+V2型複合名詞」から逆にそれに対応する動詞形が生み出され、使用され始めているのではないかとと思われる語があることについて指摘する。

本稿の投稿にあたり査読者より「駆け落ち」「狂い咲き」「炊き出し」「立ち振る舞い」「泣き笑い」「抜け駆け」「飲み食い」「巡り合わせ」「もらい泣き」などの語も、対応する動詞形を持たないもののリストに含まれるのではないかと指摘を受けたが、それらの語はここでの手順にしたがって確認すれば、いずれも対応する動詞形(「駆け落ちる」「狂い咲く」「炊き出す」「立ち振る舞う」「泣き笑う」「抜け駆ける」「飲み食う」「巡り合わせる」「もらい泣く」)が辞書に記載されているものである。したがって、本稿で抽出した対応する動詞形を持たない「V1+V2型複合名詞」のリストには、それらの語は含まれていない。ただし、5.1節で述べるが、対応する動詞形が「ある」とされるものの中にも、それが現代日本語として一般的に用いられるものかどうかという点について、検討の余地が残されるものが含まれる。(5.1節の表4にそのような「V1+V2型複合名詞」を挙げているが、例えば上記の「駆け落ち」や「飲み食い」はそこに含まれている。)

- 8 例えば「受け狙い」という複合名詞は、『受け』(観客や聴衆に笑ってもらうこと、あるいは多くの人に支持されること)を狙うこと、即ち『受け』を獲得することを目標とし、それを意図して行うこと」という意味の複合名詞であり、「名詞『受け』+動詞『狙う』」の構成を持つ複合名詞と考えられる。このようなものには、他に「痛み止め」「祝い返し」「極め付き」「継ぎ当て」「酔い醒まし」などがあつた。
- 9 例えば「下ろし立て」「書き初め」「話し振り」「遣りっ放し」などは、下線部分の構成要素は接辞化していると考えられる。

4. 対応する動詞形を持たない「V1 + V2型複合名詞」

対応する動詞形を持たない「V1 + V2型複合名詞」としてどのようなものが抽出されたか、その結果を3つのリストに分け、以下4.1～4.3節にて、順に示す。

まず、『大辞林 第三版』の見出し項目に基づき、『日本国語大辞典 第二版』にもあたって確認した結果、対応する動詞形を持たないと考えられる「V1 + V2型複合名詞」は、全499語抽出できた。また、『大辞林 第三版』には見出し項目としての記載はなかったものの、本稿では、現代日本語として既に使用され始めていると考えられる「V1 + V2型複合名詞」を2語、これに付け加えることとした。したがって、リストとしては、最終的に501語が示されることとなった。付け加えた2語については、以下の4.1節で示す。

この全501語のうち、以下の4.1節で示すように、166語が現代語として分野の偏りなく一般的に用いられるのではないかとと思われるものである。その他には、特定の分野で使用されられると思われる語が4.2節で示すように250語、古語の性格が強いなど、現代語としては日常的に用いられるとは考えにくいものが、4.3節で示すように85語と分類できた¹⁰。

4.1 対応する動詞形を持たない「V1 + V2型複合名詞」：現代日本語として一般的に用いられるもの

対応する動詞形を持たないと考えられる「V1 + V2型複合名詞」は501語（うち2語は本稿において付加したもの）抽出できたが、そのうち、現代語として分野の偏りなく用いられるだろうと思われる語は、以下の表1で示すように、166語が該当するのではないかと考えられる¹¹。

表1 現代日本語において対応する動詞形を持たない「V1 + V2型複合名詞」：

現代語として一般的に用いられるもの

逢い引き	上がり下がり	飽き飽き	上げ下げ	開け閉め
開け閉て	当たり障り	当たり外れ	誂え向き	当て逃げ
言い成り	生き写し	生き埋め	行き来	行きずり
浮き彫り	歌い回し	討ち死に	恨み死に	売り食い
追い炊き／焚き	起き抜け	置き引き	押し売り	踊り／躍り食い
覚え書き	思い出し笑い	降り乗り	買い食い	返し縫い

10 本稿では、『大辞林 第三版』をもとに抽出した499語について、それらの特徴を大きくとらえ、このように3つのリストに分類して示すことにしている。ただし、使用分野や使用頻度というのは連続的な性質を持つものと考えられるため、これらの語が必ずしも截然と3つのグループに分かれるということを主張するものではない。

11 本稿では、これらの166語の「V1 + V2型複合名詞」について、個々に使用頻度などの調査は行っていない。ここでの手順をより正確に言えば、辞書から抽出された499語のうち、特定の分野で使用されられると思われるもの（4.2節の表2に挙げる250語）、および古語の性格が強いなど、現代語として日常的に用いられるとは考えにくいもの（4.3節の表3の85語）を順に“除いた”ものが、結果的にこの表1として収められることになったと言える。表1に挙げる166語（対応する動詞形を持たない「V1 + V2型複合名詞」のうち、現代語として一般的に用いられると思われるもの）の1つ1つについて、使用頻度などの観点から、それぞれが現代日本語としてどの程度自然に用いられるものであるかを検証することは、次の段階の課題としたい。

隠し立て	隠し撮り	掛け捨て	掛け流し	駆け引き
重ね切り	重ね刷り	貸し借り	貸し剥がし	勝ち負け
考え違い	聞き納め	聞き書き	聞き応え	着倒れ
着痩せ	切り張り／貼り	切り封じ	切り盛り	切れ切れ
極め書き	食い倒れ	食い逃げ	崩し書き	暮らし向き
下げ戻し	敷き写し	忍び笑い	吸い飲み／呑み	好き嫌い
透き見	添い寝	添え書き	焚き落とし	抱き寝
出し抜け	立ち歩き	立ち売り	立ち泳ぎ	立ち食い
立ち飲み	立ち読み	建て売り	食べ盛り	試し書き*
戯れ書き	使い歩き	使い走り	掴み洗い	作り泣き
作り笑い	続け書き	勤め向き	摘み洗い	摘み食い
照り降り	照れ笑い	通り掛け	届け済み	飛ばし読み*
泊まり明け	泊まり掛け	留め立て	流し撮り	慰み書き
殴り書き	投げ売り	なぞり書き	煮炊き	縫いぐるみ
抜き打ち	抜き写し	抜き書き	抜き差し	抜き刷り
盗み食い	盗み撮り	盗み読み	盗み笑い	寝押し
寝泊まり	寝巻き／寝間着	退き引き	上り下り	飲み捨て
飲み逃げ	乗り降り	乗り詰め	乗り逃げ	這い這い
量り／計り売り	量り減り	走り競べ	走り使い	走り読み
働き盛り	離れ離れ	流行り廃り	控え書き	挽き売り
轢き逃げ	吹き溜まり	臥し起き	不貞寝	振り洗い
紛れ当たり	負け惜しみ	負け嫌い	回し蹴り	回し飲み
回り合わせ	見込み違い	見立て違い	見立て直し	満ち欠け
結び切り	持ち腐れ	持ち逃げ	揉み洗い	貰い笑い
焼き討ち／打ち	焼き増し	焼け太り	雇い止め	破れかぶれ
病み煩い	遣り取り	行き摺り	寄せ書き	読み書き
読み応え	選り好み	別れ別れ	忘れ咲き	割り書き
割り増し				

『大辞林 第三版』には見出し項目としての記載はなかったものの、本稿において、付け加えたのは、上記の表1のうち「試し書き」と「飛ばし読み」の2語である（表中に*印を付している）。このうち「試し書き」については『日本国語大辞典 第二版』には見出し項目として取り上げられている。いずれも現代日本語として耳にはする語ではあるが、参考とした3種の辞書（『明鏡国語辞典 第二版』、『岩波国語辞典 第七版新版』、『新明解国語辞典 第七版』）には、見出し項目として採録されていなかった。

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ) (国立国語研究所) では、検索対象のメディア・ジャンルおよび期間を指定せず、「試し書き」「飛ばし読み」ともにそれぞれ4件のみのヒットがある。一方、ウェブ上のブログ記事検索¹²では、「試し書き」が2005年から2013年のブログ記事に約2,500件、「飛ばし読み」が同じく2005年から2013年のブログ記事に約2,400件見られた（2013年9月30日現在）。本稿では、なるべく現代日本語の実態に即したりスト

12 「Yahoo! ブログ検索」(<http://blog.search.yahoo.co.jp/advanced>) を使用。

を作成したいと考えるため、この2語については、辞書の見出し項目として安定して記載されるには至っていないかとは考えられるものの、既に使われ始めている「V1 + V2型複合名詞」ではないかと考え、表に含めることとした¹³。

4.2 対応する動詞形を持たない「V1 + V2型複合名詞」：使用分野が特定されるもの

抽出された501語の中には、以下の表2に示すように、その使用される分野が限定されているのではないと思われる語が相当数含まれる。使用される特定の分野について、「金融・取引用語」「住宅・建築用語」「芸能用語」など、本稿における分類用語を付して分類した結果、このような「V1+V2型複合名詞」は全250語となった。

表2 対応する動詞形を持たない「V1 + V2型複合名詞」：使用分野が特定されと思われるもの

＜工芸用語＞				
合わせ吹き	浮き上げ彫り	浮き織り	受け貼り	起き揚げ
織り締め	織り付け	織り留め	搔い練り	重ね焼き
変わり塗り	括し染め	括り染め	絞り放し	透かし織り
透かし彫り	透き織り	鋤き彫り	摺り染め	染め入れ
取り染め	流し漉き	縫い絞り	抜き染め	練り付け
練り貫	練り減り	延べ打ち	延べ磨り	嵌め合い
引き染め	暈し染め	暈し繡 <small>ぬい</small>	彫り塗り	曲がり差し
巻き絞り	巻き染め	交ぜ織り	乱れ焼き	振り織り
焼き締め				
＜芸能用語＞				
合い／相引き	当て振り	居語り	活け殺し	置き生け
書き割り	歌舞伎踊り	考え落ち	切り語り	迫り下ろし
立ち語り	付け合い	脱ぎ下げ	舞働き	見立て付け
向かい付け				
＜武芸用語＞				
射向け	落とし差し	飛び切り		
＜茶道・香道用語＞				
焚き合わせ	たて点だし	迎え付け		
＜文法用語＞				
返り読み	係り結び			

13 「試し書き」と同様に「試し」を前項に持つ「V1 + V2型複合名詞」として「試し撮り／録り」という語もあると思われるが、この「試し撮り／録り」は、『大辞林 第三版』および『日本国語大辞典 第二版』のいずれでも見出し項目としては採録されていない。参考とした3種の辞書(『明鏡国語辞典 第二版』、『岩波国語辞典 第七版新版』、『新明解国語辞典 第七版』)でも取り上げられていない。また、ここでリストに加えた「試し書き」に対し、この「試し撮り／録り」については使用される分野がカメラ用語として特定されるのではないと思われるため、今回はこれをリストに加えていない。「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)(国立国語研究所)では、検索対象のメディア・ジャンルおよび期間を指定せず、「試し／ためし撮り」が15件ヒットするが、雑誌のうち「趣味」および「児童」に1件ずつ見られる他は、全てブログ記事となっている。辞書に採録されている見出し項目以外に、既に一般に使用されていると思われる語として何をリストに付け加えるかについては、今後さらに検討したい。

＜宴席用語＞				
置き注ぎ	付け差し			
＜習俗・儀礼用語＞				
上げ書き	揚巻	上げ優り	上げ劣り	還り遊び
隠し結び	競い狩り	薫き掛け	付け祭り	問い切り
と 串い／問い上げ	串い上げ	茸き籠り	抜け参り	
＜宗教・信仰用語＞				
行き触れ	生け剥ぎ	忌み明け	忌み違え	踏み合わせ
焼き刺し				
＜住宅・建築用語＞				
欠き打ち	切り欠き	崩れ積み	さく ぼ 決り食み	下げ振り
縛り抜き	透き構え	殺ぎ継ぎ	削ぎ茸き	建て入れ
出組み	通し貫	流れ造り	練り積み	伸し茸き
煽り止め	落とし閉て	落とし積み	折り上げ	嵌め殺し
招き造り	持ち放し	寄せ敷き	呼び塗り	笑い積み
＜航海・船舶用語＞				
もや かか 舳い繋り	開き走り			
＜園芸・造園用語＞				
揚げ接ぎ	合わせ接ぎ	重ね落ち	寄せ植え	寄せ接ぎ
呼び接ぎ	割り接ぎ			
＜裁縫・被服用語＞				
洗い張り	返し留め	隠し縫い	掛け接ぎ	重ね継ぎ
重ね縫い	飾り縫い	組み縫い	刺し継ぎ	刺し縫い
指貫	透かし編み	掬い留め	裁ち上がり	裁ち売り
裁ち下ろし	裁ち着け	立て刺し	付け下げ	つま 撮み縫い
挟み結び	張り返し	伏せ組み	伏せ縫い	まつ く 纏り紵け
纏り縫い				
＜料理用語＞				
合い挽き	和え作り	揚げ出し	揚げ煮	揚げ浸し
合わせ焼き	生き／生け作り	活け締め	炒め煮	落とし焼き
卸し和え	欠き割り	飾り切り	切り干し	食い積み／摘み
梳き引き	す 播り流し	削ぎ切り	染め卸し	炊き合わせ
捏ね揚げ	捏ね焼き	付け焼き	包み焼き	煮崩れ
煮浸し	練り／煉り切り	挽きぐるみ	回し切り	焼き結び
撫で切り				
＜囲碁・将棋用語＞				
指し込み	指し分け	読み勝ち		
＜釣り用語＞				
入れ食い	掛け釣り	消し込み	転がし釣り	すれ釣り
投げ釣り				

<狩猟用語>				
狩り込み	巻狩り	焼き狩り		
<競馬用語>				
追い切り				
<柔道用語>				
背負い投げ				
<相撲用語>				
浴びせ倒し	掛け反り	掛け投げ	掛け <small>もた</small> 靠れ	極め倒し
搦い投げ	出し投げ	吊り落とし		
<野球用語>				
流し打ち	振り逃げ			
<体育用語>				
蹴上がり	蹴伸び	反り跳び		
<出版・印刷用語>				
追い刷り	被せ彫り	組み付け		
<林業用語>				
狩り払い	透かし切り	付け売り	巻き立て	
<鉄鋼用語>				
焼き入れ	焼き <small>なら</small> 準し	焼き割れ		
<金融・取引用語>				
煽り買い	浮き貸し	請け書き	受け払い	売り浴びせ
売り掛け	売り据え	売り持ち	買い掛け	買い建て
買い継ぎ	買い繋ぎ	掛け買い	掛け乞い	掛け倒れ
掛け繋ぎ	掛け取り	掛け払い	貸し売り	支払い渡し
占め売り	占め買い	捨て売り	競り売り	競り買い
付け落ち	積み増し	積もり書き	出直り	抜け売り
延べ売り	延べ買い	延べ払い	延べ渡し	踏み上げ

4.3 対応する動詞形を持たない「V1 + V2型複合名詞」：日常的に用いられにくいもの

また、抽出された501語の中には、以下の表3に示すように、古語の性格が強いなど、現代語として日常的に用いられるとは考えにくいものも、85語観察された。

表3 対応する動詞形を持たない「V1 + V2型複合名詞」：日常的に用いられにくいもの

上げ <small>くだ</small> 下し	当て仕舞	宛て書き	洗い替え	生き腐れ
行き立て	凍て解け	入り繰り	入り取り	入れ立て
打ち交い	打ち交え	生まれ立ち	老い入れ	追い書き
押し送り	押し競べ	折り据え	思い寝	隠れ遊び
掛け踊り	掛け減り	掛け向かい	借上 <small>かしあげ</small>	貸し上げ
切り溜め	切り遣い	食い返し	搔い詰め	搔い掘り
替え劣り	替え優り	書き止め	懸け守り	掠り取り

暮れ暮れ	削り回し	沈め折り	済み済み	咳き病み
責め塞ぎ	抱き守り	出し置き	叩き／敲き放し	敲き払い
立ち構え	立て明かし	立て入り	立て分け	食べ余し
食べ立ち	試し斬り／切り	戯れ遊び	掴み差し	継ぎ送り
搦き減り	作り倒れ	作り取り	付け立て	続き合い
出越し	出遣い	出流れ	留め書き	取り読み
泣き寄り	練り踊り	上り商い	乗り打ち	吐き下し
引き明け	踏み継ぎ	踏み寄せ	守り付け	まろ 転び寝
見入れ	見醒め	見せ消ち	見立て替え	召し下ろし
召し次ぎ／継ぎ	病み返し	行き成り	読み売り	割り替え

5. 対応する動詞形を持つ「V1 + V2型複合名詞」：現代日本語として注意が必要なもの

第4節で示したように、対応する動詞形を持たない「V1 + V2型複合名詞」としては、全501語がリストとして抽出された。一方、辞書（『大辞林 第三版』および『日本国語大辞典 第二版』）に基づき確認すれば、確かに対応する動詞形は持つとされるのだが、そのような「V1 + V2型複合名詞」の中には、現代日本語としては注意が必要だと思われるものが少なからず観察される。第5節ではこのような「V1 + V2型複合名詞」について述べる。

5.1 対応する動詞形が用いられにくいと思われる「V1 + V2型複合名詞」

その1つは、対応する動詞形が、現代日本語として自然に用いられるとは考えにくい「V1 + V2型複合名詞」である。以下の表4で示すように、このような「V1 + V2型複合名詞」は20語観察された。これらの20語は、第4節で示した対応する動詞形が「ない」もののリストには含めることはできない。しかし、その複合動詞形を一般的によく用いられるものと考えてよいのかについては、検討を要すると思われるものである。

表4 対応する動詞形が用いられにくいと思われる「V1 + V2型複合名詞」

行き帰り	行き止まり	居眠り	飢え死に	浮き沈み
売り買い	上げ下ろし	起き伏し／臥し	送り迎え	押し引き
駆け落ち	重ね着	着太り	飛び入り	取り引き
伸び盛り	上り下り	飲み食い	走り書き	病み上がり

辞書により確認すれば、上記の20語には、その対応する動詞形（「生き帰る」「行き止まる」「居眠る」「飢え死ぬ」「浮き沈む」「売り買う」「上げ下ろす」「起き伏す／臥す」「送り迎える」「押し引く」「駆け落ちる」「重ね着る」「着太る」「飛び入る」「取り引く」「伸び盛る」「上り下る」「飲み食う」「走り書く」「病み上がる」）が記載されており、対応する動詞形の“ある”「V1 + V2型複合名詞」であると言える。しかしながら、その複合動詞形が一般的に使用されるものかどうかには、注釈を要すると思われる。

例えば、上記の表のうち「居眠り」は、動詞「する」を伴い「居眠りする」というサ変動詞を構成する。このようなサ変動詞を構成するタイプのものは、対応する複合動詞（「居眠る」）と比べた場合、どちらが一般的に用いられるのだろうか。

辞書の記載を確認すると、上記の表4のうち「行き止まり」「押し引き」「伸び盛り」「病み上がり」の4語以外は、いずれも「する」を伴いサ変動詞を構成することのできる複合名詞である。試みに、このタイプのものから3語（「居眠り」「走り書き」「着太り」）を取り上げ、サ変動詞と、対応する複合動詞との使用状況の違いを探ってみる。

まず、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を検索してみると、検索対象のメディア・ジャンルおよび期間を指定せず、サ変動詞「居眠りする」は82件見られるのに対し、動詞「居眠る」は2件（メディア・ジャンルは書籍のうち「歴史」および「芸術・美術」）のみであった。「走り書き」については、同様にサ変動詞が33件に対し、動詞「走り書く」はヒットしなかった。

「着太り」については上記コーパスではヒット数がほとんどなかったため、ウェブ上のブログ記事検索¹⁴を行ったところ、サ変動詞「着太りする」は2005年から2013年のブログ記事で198件見られたのに対し、動詞「着太る」は2010年から2013年のブログ記事に29件であった¹⁵（2013年9月30日現在）。ただし、「着太る」のヒット数29件については、ほぼ同一のブログにて日を変えて観察されたものであり、様々な使用者がそこに観察されたわけではない。

また、サ変動詞を形成しないタイプのものからも2語（「伸び盛り」「病み上がる」）について、その使用状況を見てみると、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」ではこれらの動詞はヒットしない。ウェブ上のブログ記事検索では、「伸び盛り」が2007年から2013年のブログ記事に25件、「病み上がる」が2008年から2013年のブログ記事に187件見られた（2013年9月30日現在）。

いずれも大まかな数を見たに過ぎないが、これらの対応する動詞形については、現代日本語において広く定着して使用されているとまでは言えないのではないだろうか。

また、上記の20語の中には、その「V1+ V2型複合名詞」の原義に対しては対応する動詞は確かにあると言えるものの、その多義的別義のすべてに対して、それが対応関係にあるとは言にくいのではないかというタイプのものも含まれる。

例えば、「飛び入り」に対しては、「飛び入る」という複合動詞の存在が確認できる。しかし、辞書の記載内容に基づけば、これは「飛び込む」と同じ意の動詞であり、複合名詞「飛び入り」において表される「予定していた以外の者が不意に参加すること」（『大辞林 第三版』）という多義的別義については、この動詞がその意味においても対応していると言ってよいかについて検討の余地があると思われる。

また、「取り引き」に対しても、「取り引く」という対応する動詞はある。しかし、これも「とらえて引っ張る」の意であり、いわゆる「取引」（商業行為や売買の行為、あるいは互い

14 4.1節と同様に「Yahoo! ブログ検索」（<http://blog.search.yahoo.co.jp/advanced>）を使用。

15 見られた実例を部分的に示すと、例えば「隠そうとすればするほど着太る法則」（<http://ameblo.jp/jewel-style/entry-11574730197.html>）、「[骨格タイプが] ストレートの人が着ると着太ったり、オバちゃんほくなるので気を付けて選んでね〜」（<http://ameblo.jp/charmant-fleur/entry-11027632580.html>）、「フワフワしてるものは似合わないらしい うん確かにコロコロに着太る」（<http://ameblo.jp/handmade-days/entry-11527668670.html>）（いずれも下線は引用者、[]は引用者が補足）というようなものである。

の利益のために双方の主張を取り入れ合って妥協すること)、『大辞林 第三版』の意味に着目すれば、動詞「取り引く」がそれに対応すると言ってよいかは疑問が残る。

このような例は、「V1+ V2型複合名詞」に、対応する複合動詞には見られない多義が生じ、その意味において日常的に用いられるようになっている事例があることを示していると思われる。

5.2 対応する動詞形を想起しにくい「V1+ V2型複合名詞」

また、数は少ないが、現代語における活用形が古語と一致していないために、その対応する複合動詞の形を正しく想起することが難しいと考えられる「V1+ V2型複合名詞」として、以下の表5に示す2語が観察された。

表5 対応する動詞形が想起しにくい「V1+ V2型複合名詞」

思い出	巻き添え
-----	------

複合名詞「思い出」は、動詞「思ひづ」または「思ひいづ」(ダ行下二段活用)の連用形から生じたとされ、対応する動詞形を持つとされるものである。しかし、現代語の動詞の活用規則に従って考える限り、後項動詞の「出」を連用形として持つ動詞については、現代日本語においては「出る」が想定される。したがって、「思い出」に対応する複合動詞を現代日本語の枠組みの中で想起した場合には、「*思い出る」という形が生じてしまうことになる。辞書には対応する動詞(「思ひづ」「思ひいづ」)についての記載が確かにあるものの、現代日本語としては、「*思い出る」という複合動詞は用いられないため、辞書からの語源的な情報とは食い違いが生じる。

また、複合名詞「巻き添え」は、動詞「巻き添ふ」(ハ行下二段活用、後にヤ行にも活用)の連用形から生じたとされ、対応する動詞形を持つものである。しかし、これも現代語の枠内で考えれば、後項動詞「添え」を連用形として持つ動詞として考えられるのは、「添える」であり、対応する動詞としては「*巻き添える」という形が想起されることになる。しかしながら、「*巻き添える」という複合動詞は現代日本語にはないため、語源的な成り立ちを問題とせず現代日本語の中で単純に対応関係を探った場合には、対応する動詞の形はないものとして扱われることになってしまう。

この2語も、対応する動詞形が「ない」もののリストには含めることはできないが、現代日本語を対象として考える場合には、注意が必要なものである。

5.3 対応する動詞が生み出されつつある「V1+ V2型複合名詞」

最後に、リスト化の作業を進める過程において、辞書からは対応する動詞形の存在は確認されなかったものの、現代日本語においては、「V1+ V2型複合名詞」から逆に対応する動詞形が生み出され、使用され始めているのではないかと考えられる語として、「着回し」と

いう「V1+ V2型複合名詞」が1語観察された。

「着回し」とは、「組み合わせを替えて、一組みの服をいろいろな装いに使うこと」（『大辞林 第三版』）であるが、いずれの辞書からも対応する複合動詞の形は確認することができない。上記のリスト化の手順に従えば、対応する動詞形のないものとして含めてもよいことになるかもしれないが、これについては、「着回す」という複合動詞の形が現代日本語として使用され始めているのではないかということが確認できる。

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」では、動詞「着回す」は2001年以降の雑誌等の記事に17件見られるにとどまる。一方、ウェブ上のブログ記事検索では、2005年から2013年のブログ記事において約3,000件のヒットが見られた（2013年9月30日現在）。これらのブログ記事には服飾の通信販売を目的としたページも含まれるが、特に販売を目的としない雑記帳形式のブログ記事などにも使用が見られるため、この語の使用は一般にも広がりつつあるのではないかと思われる。よって、本稿では辞書にその記載はないものの、対応する動詞形が用いられる「V1+ V2型複合名詞」の1つとして、これを扱うこととしている。

同じようなタイプのものには、「下げ止まり」という「V1+ V2型複合名詞」もある。「下げ止まり」とは、「物価、相場など、景気の動向を示す指数がこれ以上下がらない状態にまで達すること」（『大辞林 第三版』）であり、本稿での分類で言えば金融・取引用語として、使用される分野が特定される語の1つである。『大辞林 第三版』および『日本国語大辞典 第二版』からは、これに対応する「下げ止まる」という複合動詞の形は確認することができないが、『明鏡国語辞典 第二版』（2010年）、『新明解国語辞典 第七版』（2012年）では見出し項目として「下げ止まる」が採録されている。したがって、本稿ではこれに対応する動詞形の用いられるものとして扱っている¹⁶。ちなみに、版の古い『新明解国語辞典 第四版』（1995年）や『明鏡国語辞典 初版』（2002年）では、「下げ止まる」という見出し項目は採録されていない。時代とともに金融・取引用語としてその動詞形が使用されるようになってきたのではないかと考えられる¹⁷。

16 使用されるメディア・ジャンルに限定はあるかと思われる。「現代日本語書き言葉均衡コーパス」では雑誌・ブログ・白書を中心に30件見られるにとどまる。検出された最も古い使用は、1978年の各種白書におけるもので、例えば「51年度に大幅に減少した土木工事は着工工事費（名目）で前年度比7.3%増と下げ止まった」というものである（下線は引用者）。その他1987年の白書でも「卸売物価は次第に下げ止まりつつあるだけに〔以下略〕」（下線は引用者）というような例が見られる。一方、ウェブ上のブログ記事を検索すると、9,000件以上（2005年～2013年）ヒットする（2013年9月30日現在）。使用されるのは、主に金融・相場に関するトピックではあるが、中には「水俣湾の汚染度が下げ止まったようにみえます。」（2013年9月29日 <http://blogs.yahoo.co.jp/kensetukan/32226280.html>）、「昨夜も体重を量りました。13.2kgとまた100g減ってました。下げ止まったかと思ってたけど、まだわからない状態でした。」（2013年9月26日 <http://plaza.rakuten.co.jp/milkoka/diary/201309260000/>）、「おっと、10000アクセス迎りのアクセス数が前回より若干増えている。マジで下げ止まったか?」（2013年9月24日 <http://plaza.rakuten.co.jp/inakakayoushi/diary/201309240000/>）（いずれも下線は引用者）のように、金融・取引に関わらず、数値の増減という形で示される何らかの事象について、この複合動詞が用いられ始めているようすがうかがわれる。

17 このタイプに近いと思われるものとして、他にも「下げ戻し」という「V1+ V2型複合名詞」が観察される。「下げ戻し」とは、本来「政府・役所などに差し出した書類などをそのまま本人に返すこと」（『大辞林 第三版』）の意である。「*下げ戻す」という複合動詞の形は確認されないため、本稿では対応する動詞形のないもののリストに含めている。ただし、「下げ戻し」については、辞書における記載はないものの、金融・相場用語として、これが用いられる場合があるようである。この金融・相場用語においては、「下げ戻す」という動詞形がウェブ

6. まとめと今後の課題

本稿では、「V1+V2型複合名詞」のうち、現代日本語において対応する複合動詞の形が用いられないタイプのものを、総合的な国語辞書『大辞林 第三版』(2006年)を資料として、網羅的にリスト化して示した。対応する動詞形の有無については『日本国語大辞典 第二版』も参照し、確認した。

結果、該当する語は本稿で採用追加した2語も含め、501語が抽出された。このうち、現代語として分野の偏りなく用いられると思われる「V1+V2型複合名詞」は、166語(表1)であった。他に、特定の分野で使用されられると思われるものが250語(表2)、古語の性格が強いなど、現代語として日常的に用いられるとは考えにくいものが85語(表3)観察された。

また、リスト化の作業を通じて、「V1+V2型複合名詞」とその対応する動詞との関係を考える際に、注意すべきいくつかの点が浮かび上がってきた。

その1つは、対応する動詞形の中には、現代日本語として自然に用いられるとは思われないものが少なからず含まれるということである。このような「V1+V2型複合名詞」は20語見られた(表4)。その中には、「居眠る」「着太る」のように、「複合名詞+スル」の形(「居眠りする」「着太りする」)のほうが使用頻度が高いと思われるもの、また「飛び入り」「取り引き」のように、その原義においては対応する動詞形(「飛び入る」「取り引く」)があると言えるものの、その名詞が現代日本語において一般的に用いられる意味においては、その動詞がその意味に対応していると言えるかどうか、検討の余地が残されるものが含まれる。

また、現代語における活用形が古語と一致していないために、現代日本語においてその対応する複合動詞の形を正しく想起することが難しいと考えられる「V1+V2型複合名詞」が2語観察された(表5)。

さらに、辞書には対応する動詞形の記載はないものの、現代日本語においては、「V1+V2型複合名詞」から逆に対応する動詞形が生み出され、使用され始めているのではないかと考えられる「V1+V2型複合名詞」が1語観察された。

今後は、本稿で抽出したリストをもとに、語源的に動詞の対応形を持つかどうかという点だけでなく、やはり現代日本語としてその動詞形が自然に用いられるかという点について、使用頻度調査などに基づき検証することを含め、さらに考察を進めていきたい。

上の記事などにわずかながら観察される。ただし、ヒット数は20件(2005年~2013年)ほどであり、さらに書き言葉としてはこの意味の動詞は定着していないと思われ、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」では1件もヒットしない。

引用文献

- 石井正彦 (2007) 『現代日本語の複合語形成論』 (ひつじ研究叢書<言語編>第49巻) ひつじ書房
- 国立国語研究所 (1985) 『語彙の研究と教育 (下)』 (日本語教育指導参考書13)
- 鈴木智美 (2013) 「対応する動詞形のない V1 + V2型複合名詞について—辞書からのリストアップの試み」 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 第39号 pp.83-91
- 長嶋善郎 (1976) 「複合動詞の構造」 『日本語講座4 日本語の語彙と表現』 大修館書店 pp.63-104
- 西尾寅弥 (1961) 「動詞連用形の名詞化に関する一考察」 『国語学』 第43集 pp.60-81

辞書

- 北原保雄 (編) (2010) 『明鏡国語辞典 第二版』 大修館書店
- 西尾 実・岩淵悦太郎・水谷静夫 (編) (2011) 『岩波国語辞典 第七版新版』 岩波書店
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部 (編) (2000-2002) 『日本国語大辞典 第二版』 第1巻～第13巻 小学館
- 松村明 (編) (2006) 『大辞林 第三版』 三省堂
- 山田忠雄・柴田 武他 (編) (2012) 『新明解国語辞典 第七版』 三省堂

コーパス・ウェブ検索

- 「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」 (国立国語研究所)
http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/
- 「Yahoo! ブログ検索」
<http://blog.search.yahoo.co.jp/advanced>

“Verb1+Verb2” Types of Compound Nouns Lacking Corresponding Verbs in Modern Japanese: The Wordlisting of Based on Dictionaries

Tomomi SUZUKI

Tokyo University of Foreign Studies

【keywords】 “Verb1+Verb2” Type of Compound Noun, Corresponding
Compound Verb, Conversion, Dictionary, Wordlist

The purpose of this paper is to build up a list of “Verb1+Verb2” type Compound Nouns for which no verb correspondences exist in the modern Japanese language. Such Compound Nouns include “yomi-kaki”, “nori-ori”, “tachi-yomi”, “oshi-uri”, “tobashi-yomi”, and “omoidashi-warai”. These Compound Nouns do not have corresponding verb forms, for example “*yomi-kaku”, “*tachi-yomu”, or “*omoidashi-warau”.

Although previous studies have pointed out that these types of Compound Nouns were observed, no study provides a list of those words. Thus, it is impossible to grasp how many and which Compound Nouns in fact have no verb correspondents.

In this paper I examined the header entries of a modern encyclopedic Japanese dictionary while referring to other dictionaries or a corpus. I found 501 Compound Nouns of this type, including the following:

- (a) 166 Compound Nouns that are used in modern Japanese generally
- (b) 250 words that might be used in specific fields
- (c) 85 non-modern, or non-frequently-used Japanese words

Furthermore, aside from this 501, it was observed that

- (d) 20 Compound Nouns actually had corresponding verbs, but those verbs are not considered in general use: for example, “i-nemuru”, “ki-butoru”, “hashiri-kaku”, “nobi-zakaru”.
- (e) 2 words were difficult to presume correspondent to the verb because the conjugation of the verbs had been changed, e.g. “omoi-de”, “maki-zoe”.
- (f) 1 corresponding verb has been newly derived from a Compound Noun, i.e. “ki-mawasu” from “ki-mawashi”.

東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』第4号執筆者一覧

孫斐	北京大学大学院博士後期課程
ツオイ・エカテリーナ	東京外国語大学大学院博士後期課程
Hanan Rafik Mohamed	カイロ大学
葛茜	福州大学
篠原将成	国際基督教大学大学院博士後期課程
鈴木智美	東京外国語大学
花園悟	東京外国語大学
臼井直也	東京外国語大学大学院博士後期課程
谷口龍子	東京外国語大学
望月圭子	東京外国語大学
尹鎬淑	サイバー韓国外国語大学校
田中和美	国際基督教大学
ASADCHIH Oksana	タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学
辻澤隆彦	東京農工大学

『日本語・日本学研究』国際編集顧問一覧（順不同）

趙華敏	北京大学
徐一平	北京外国語大学
蕭幸君	東海大学（台湾）
尹鎬淑	サイバー韓国外国語大学校
任榮哲	中央大学校（韓国）
于乃明	国立政治大学
金鐘德	韓国外国語大学校
陳明姿	国立台湾大学

編集後記 東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究』第4号をお届けします。／今号への公募論文の応募総数は14本（言語6、日本語教育3、文学3、歴史研究1、文化1）。うち8本が採用となりました。／また今号では、2013年7月31日から8月2日にかけて開催された夏季セミナー2013「言語・文学・歴史——国際日本学の試み」でおこなわれた院生発表会の要旨を掲載いたしました。国内外の院生の活気ある報告に私たちも大きな刺激を受けました。セミナー開催にあたってご協力いただいたみなさまに心から感謝申し上げます。（友常勉）

東京外国語大学国際日本研究センター

日本語・日本学研究 vol.4

Journal for Japanese Studies

発行：2014年3月31日

編集者・発行者 東京外国語大学国際日本研究センター

代表者 野本京子
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 アゴラ・グローバル 2F
Tel/Fax: 042-330-5794

印刷・製本 (有)山猫印刷所
〒116-0014 東京都荒川区東日暮里 5-39-1
Tel: 03-5810-6945